

ソニー損保とYahoo! JAPAN、カーナビの運転特性データを活用した個人向けテレマティクス保険商品・サービスの開発に向けた共同研究を開始

ソニー損害保険株式会社
ヤフー株式会社

ソニー損害保険株式会社（東京都大田区、代表取締役社長：丹羽 淳雄、以下「ソニー損保」）とヤフー株式会社（東京都千代田区、代表取締役社長：宮坂 学、以下「Yahoo! JAPAN」）は、Yahoo! JAPANが提供する1,000万ダウンロード突破のスマートフォン向け無料カーナビアプリ「Yahoo!カーナビ」から得られる運転特性データを活用した、新しいテレマティクス保険商品や関連サービスの開発に向けた共同研究を開始します。

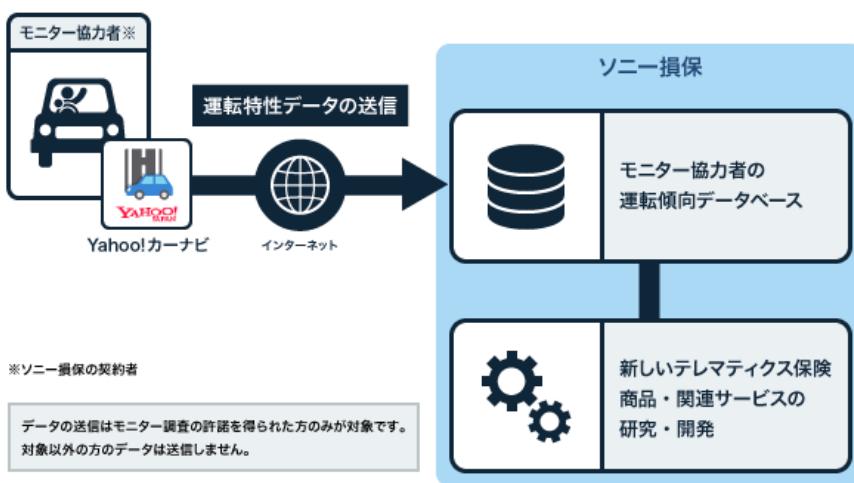
ソニー損保は、同社の一部の保険契約者を対象に本研究へのご協力のお願いをさしあげ、参加同意を得た上で、2017年春から約1年間の予定でモニターテストを実施し、研究を行ってまいります。具体的には、モニターテスト協力者が使用する「Yahoo!カーナビ」で計測された、走行速度、急加速、急減速などの運転特性データ（*1）を、テレマティクス保険のひとつである運転行動連動型（Pay How You Drive型 以下「PHYD型」）保険商品を開発するための研究に活用する予定です。

ソニー損保では、お客様にとって納得感のある保険商品を提供できるよう、ひとりひとりのリスクを保険料に反映させる運転行動連動型（PHYD型）の自動車保険の開発に取組んでおり、2015年2月には日本で初めて加速・減速の発生状況（運転特性）を保険料に反映させる自動車保険「やさしい運転キャッシュバック型」の販売を開始しました。

一方、Yahoo! JAPANは、スマートフォン向けの無料カーナビアプリ「Yahoo!カーナビ」を通じて、目的地へのナビゲーションだけでなく、ドライバーの安全運転意識や運転の利便性を高めるためのサービスを提供しています。「Yahoo!カーナビ」では、カーテレマティクス事業「Yahoo!カーナビ プラス」（*2）構想を掲げ、かねてよりドライバーの安全運転行動に直結する自動車保険分野との連携を検討していました。

このたびのソニー損保とYahoo! JAPANの連携により、両社の知見を活かすことで、ドライバーの安全運転支援や事故防止につながる新たなサービスや、より納得感のある新しい保険商品の開発に向けた検討を進め、自動車事故の削減に貢献してまいります。

今回の取り組み



■ソニー損保の自動車保険について：<http://www.sonysonpo.co.jp/auto/>

ソニー損保の自動車保険は、“保険料は「走る分だけ」”というわかりやすさや、充実した高品質なサービスなどがお客様から支持され、ダイレクト自動車保険市場において14年連続でトップの売上を堅持しています。 (*3)

■「Yahoo!カーナビ」について：<https://carnavi.yahoo.co.jp/promo/>

Yahoo! JAPANが提供する、高品質なイラストと音声でルート案内を行う本格的な無料カーナビアプリです。日本道路交通情報センターJARTICが提供するリアルタイムに送信される渋滞や交通規制等の交通情報に対応しているほか、アプリユーザーの走行情報“プローブ情報”を活用した渋滞情報も提供しています。2014年7月に提供を開始、2017年1月に1,000万ダウンロードを突破しています。

<本文の注記>

(*1) モニターテストへの参加を希望されたユーザーの運転特性データのみを共同研究に利用いたします。利用する運転特性データは、加速・減速、コーナリング、走行速度、走行された道路に関する情報の、走行データを指します。なお、本研究において、お客様の走行履歴（位置情報）は、急加速・急減速・急ハンドルなどを検知した場合以外は、取得いたしません。また、ソニー損保は、運転特性データおよび走行履歴を保険商品・サービスの開発以外に利用いたしません。

(*2) “車空間のユーザー”にさらに高い付加価値を提供するべく、「Yahoo!カーナビ」と親和性の高い各領域のパートナー企業との連携を行うカーテレマティクス事業構想の名称です。

(*3) 自動車保険を主にダイレクトで販売している損害保険会社の2015年度までの自動車保険料収入より（ソニー損保調べ）。売上とは、元受正味保険料のことです。